

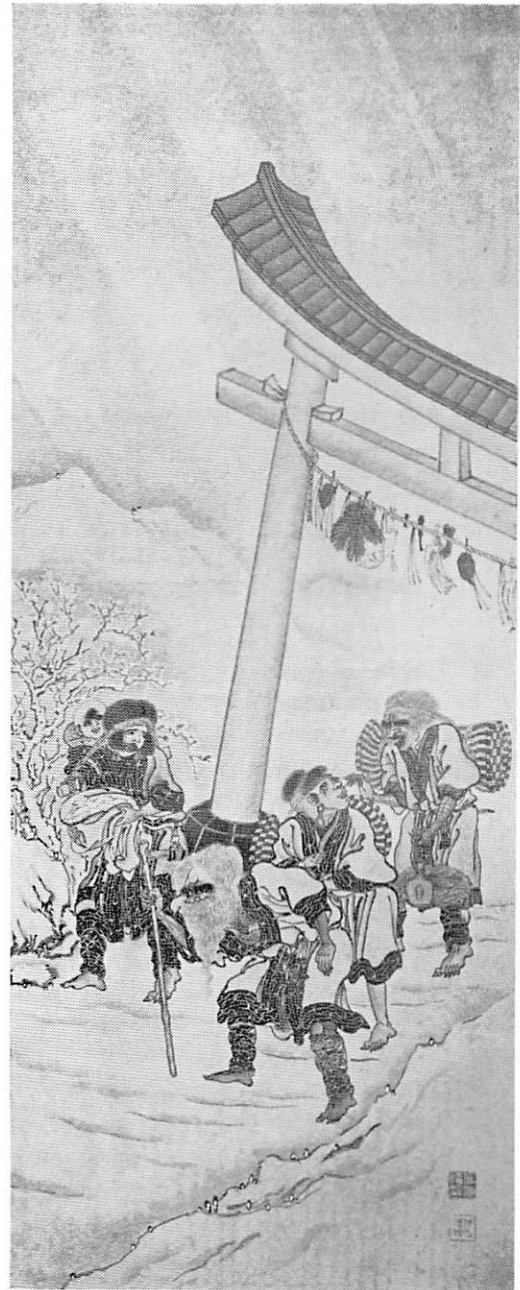
函館市指定有形文化財

アイヌ風俗12ヵ月屏風 一月 社頭の図

平沢屏山筆 宮原柳遷模写

アイヌ絵は江戸中期から明治にかけて多く描かれた。今日ではこのアイヌ絵がアイヌの風俗を知る資料として貴重なものとなっている。しかしアイヌが自ら描いたものではなく、アイヌに接した日本人などによるもので、偏見や想像がある。

これはアイヌ絵の最後を飾った平沢屏山による「アイヌ風俗12ヵ月屏風 一月の図」で、当人がアイヌ部落をまわり、よくその生活を見ているので割合正確な描写であるといわれている。アイヌ達が日本人の建てた神社に参詣するところの絵である。



函館圏流通センター用地内

西桔梗遺跡の発掘について

1. 西桔梗遺跡

函館圏流通センター建設予定地となった亀田市の桔梗台地は、道南地方ではめずらしいほどの段丘発達がみられる。この一帯は旧海岸線のため先史時代の遺跡が多く、有名なサイベ沢遺跡も近くにある。西桔梗遺跡は、昭和46年8月に函館圏開発事業団の依頼で市立函館博物館が事前調査して新たに発見されたもので、流通センター建設予定地内には7カ所の遺跡があることがわかった。西桔梗遺跡とはそれらの総称であり、各地点の遺跡にはA、B₁、B₂、C、D、E、E' 遺跡と遺跡名がつけられた。

2. 遺跡の調査

この調査は、文化庁、北海道教育庁などの指導ではじめることになったが、このような大規模な緊急調査は北海道でははじめてであったため、いくつかの問題に直面することが多かった。



発掘現場

7遺跡のうち、A地点遺跡は緑地として保存されることになったが、ほかの6遺跡については文化財保護法第57条の2が適用された。発掘調査とはただ掘る仕事と思われているが、発掘に参加する人達には遺跡を記録保存してのちのちまで役立てるという責任があり、それが専門家であっても遺跡の破壊行為につながる。そのために全神経の張りつめた毎日が続き、少しの観察記録もゆるがせにできない。詳細な地形測量、住居などの構造の部分部分の計測、出土品の分布と配列、位置と深さと地層の関係、写真記録など発掘にたずさわる人は、それぞれの分担を1人でやらなければならないときもある。

緊急発掘ができる条件は、発掘・資料整理・報告書作成までの一連の作業ができるために、仕事に専任できる調査員、発掘経験のある調査補助員、固定作業員、事務職員と資料整理室、資料保管場所などの施設と必要経費があらか

じめ準備されていなければならない。しかも、埋蔵文化財の場合は地上観察をいかに正確に行なったとしても、規模が大きかった

り、遺跡の性質が複雑であったりして調査期間がのびることが多く、予算も当初より増額されなければならない



住居跡

掘が何年もかかってしまった例もある。

西桔梗遺跡は、調査対象の7地点遺跡の発掘予定面積が25,916m²という広大なものであったが、造成事業が8月からはじめられるということで、ほとんど準備期間もなく発掘にかからなければならなかった。

埋蔵文化財の発掘調査、ことに行政発掘の場合しっかりした行政指導と組織、体制がなければ、形式的な調査に終り、記録保存の意義すらあいまいになりかねない。

4月から10月まで半年間のながった発掘調査を終ったとき、延7千人におよぶ参加者と側面から協力された方々の絆の恩恵ほど嬉しく感じたことはなかった。

3. 発見された集落

遺跡が分布していた丘陵の西側が旧海岸線にあたる。ここには数千年もの間にわたってどのような人間が、どんな生活をしていただろうか。耕作によって攪乱された地層を取り除き、いくつかの火山灰層などを調べて掘り下げていくうちに、沢に投げ捨てられた土器片の山やいろいろな形をした堅穴住居跡、管玉や土器を副葬した墓墳などが、つぎつぎに発見された。楕円形の堅穴住居、駒形をした五角形の堅穴住居、隅丸方形の堅穴住居など時代によって異なる住居の形式が見つかり、これまでに明らかでなかった先住民族の家の構造もはっきりした。ことに五角形の堅穴住居跡群は、北海道ではじめて全貌があかみに出たもので、南の方向性をしめして、住居壁の内側にならぶ柱穴、河原石を丸形や方形に配列した炉跡も一定の規則性をもっている。また、火災にあって焼け落ちたままの屋根の炭化材も、いまC-14の年代測定と材質の鑑定がおこなわれている。山積された発掘資料が博物館の一室でつぎつぎに整理されているが、これからいろいろなことがわかってくるにちがいない。

(学芸員：千代 肇)

『市立函館博物館入館者の

動向と日曜日の無料化』

標記の図表によっても知られるように、昭和40年までは、本館が未完の状態であり、昭和30年五稜郭公園内に開館した「五稜郭分館」及び明治時代に創立した函館公園内の「民族館」「水産館」と、この3館の入館者を、また分館において毎年開催してきた特別展の入館者数を加えた合計の数字をグラフによって示した。

このことにより35年～40年の入館者数が、幾らかずつ延びてきていることが知られる。

昭和41年に本館が開館、それによって民族館、水産館の2館が閉館、その頃から本館、分館共に入館者数が多くなってきた。

特に分館の場合、函館市内の観光コースに入っている、函館市民のベッドタウンが近年五稜郭公園付近に多く建てられてきた、などの事情によって、その入館者の増加が年を追うごとにめざましく、例えば年間の一般入館者数が41年の40,136人に対し46年には89,752人という倍以上の伸び率となった。

ところが本館は42年をピークとして下り坂になってきたことをグラフは示している。このことについて考えられることは、分館とは全く対照的に、本館の入館者の殆んどが観光客ではなく、大半が函館市民であったところ、その住民が東部の日吉、花園、駒場などの各町、北部の五稜郭町、亀田市内方面等に移動していったために、西部地区の人口が急激に減少していったことにその原因があるようだ。

それで、この減少に対応する対策として試みられたのが、本館における日曜日の無料化である。

では、ここにおいて日曜日の無料化についての経過を述べてみたい。

博物館の入館料については、博物館（本館）における日曜日の入館料の無料化及び規程の整備を理由として、市立函館博物館条例(昭和27年5月28日函館市条例第20号)の一部改正を行ない、昭和47年4月1日から次のとおりとした

(入館料) 第7条 博物館及び博物館五稜郭分館の入館料は、次の各号に掲げる額とする。

ただし6歳未満の者、市内の学校の学生、生徒、および児童で教員等の引率する者、ならびに市長が必要と認める者の入館料は、無料とする。

(1) 一般 1人 10円

(2) 学生、生徒、児童 1人 5円

(3) 10人以上の団体 前各号の2割引の額

- 博物館郷土資料館の入館料は無料とする。
- 第1項に掲げる入館料を納めた者に対しては、発行当日限り有効の各館共通観覧券を交付する。
- 第1項の規定にかかわらず、博物館における日曜日の入館料は無料とする。
- 第1項および第4項の規定にかかわらず、特殊な博物館資料を展示する場合においては、市長の定める入館料を徴収することができる。

附則この条例は昭和47年4月1日から施行する。

以上。博物館法第23条の規定によると、「公立博物館は入館料、その他の博物館資料の利用に対する対価を徴収してはならない。但し、博物館の維持運営のため、やむを得ない事情のある場合は、必要な対価を徴収することができる」と定められている。

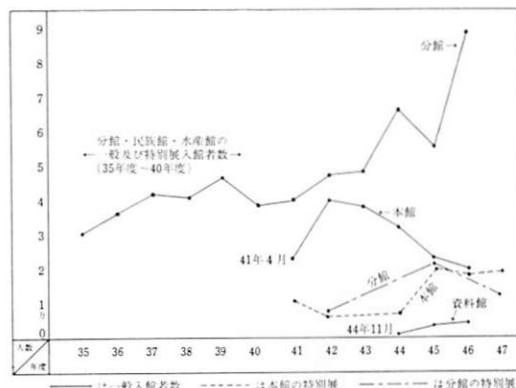
したがって市立函館博物館の入館料もまたこの点に根拠を求めたもので、全国の公立博物館の9割以上が有料となっている。しかし学校教育などに果たす博物館の役割等を考慮し、いわゆる教育課程の一環として博物館を利用する際は条例上明確に免除規定を設け、利便に供しているのである。

さて、今回の日曜日の無料化については、社会の高度化複雑化に伴い、ウィークデーに社会教育機関を利用し、自ら教養を高めることなどは、事実上不可能になってきている。

入 者 館 の 推 移

特 別 展 の 内 訳

博 物 館						五 稜 郭 分 館					
年度	特別展名称	大人	小人	期 間	日数	特別展名称	大人	小人	期 間	日数	合計人数
41	日本美術展	5,811	4,781	4月29日 5月22日	24日						10,592人
42	肉筆浮世絵名作展	6,537	103	11月3日 11月12日	10日	百年記念五稜郭戦争資料展	5,031	2,372	4月29日 5月15日	17日	14,043人
43						戊辰戦争 東京東部デパート展					資料提供
44	北方民族展	5,840	1,892	4月26日 5月5日	10日						7,732人
45	銭島古銭と新資料展	7,294	13,693	4月25日 5月31日	37日	五稜郭戦争新資料展	18,857	3,401	7月28日 8月16日	20日	43,245人
46	カラフトアイヌ展	5,338	14,242	4月20日 5月30日	41日						19,580人
47	南土俗展	3,449	16,432	4月29日 6月11日	44日	五稜郭戦争と新資料展	12,196	2,164	7月23日 8月13日	22日	34,241人



函館市の場合などは、先きにも説明したようにその住宅地が、土地に余裕のある隣の亀田市及び函館市の東部と北部に移り、博物館(本館)のある函館山麓の西部地区はそれとは反対にさびれて足を運ぶ市民が年々少なくなっている現状である。

この際、一般市民はもとより、広い範囲にわたって近在市町村の人々に博物館を開放してその利便に供し、博物館というものに対する認識を深めてもらうこと、文化財がいかに重要で、大切であるかを理解してもらおうとするのが日曜日の無料化の主旨である。

五稜郭分館についてはグラフによっても知られるように、近年観光客等の入館者増加がめざましく、日曜日を無料化にすること自体が、他の入館者に迷惑を及ぼすおそれがあり、また五稜郭分館の受入体制等の事情もあるので、博物館(本館)の推移を見守りながら、検討していかなければならないだろう。

さて、このたび本館の日曜日の無料化を実施するに際し全国の公立博物館の無料日等の実態調査を行ない、93の各博物館、美術館、郷土館などに問い合わせた結果、70通の回答を得た。それによると各館の事情はまちまちであったが、期間及び対象を限定して無料化にしていることが知れた。例

①……こどもの日の無料

網走市立モロ貝塚館、網走市立郷土博物館、旭川郷土博物館、福井市立歴史博物館、秋田美術館、仙台市立天文台、その他数館。

②……毎月第2日曜日の無料

豊田市郷土資料館。

③……70歳以上の老人無料

仙台市博物館、岡山県井原市田中館、飛騨美濃村、大垣城郷土博物館。

④……毎月第3日曜日の無料

広島県福山市立福山城博物館。

⑤……港まつり、子供の日、新入学児童の無料

室蘭市青少年科学館。

⑥……市内の小中学生20名以上の団体、身体障害者、老人手帳所有者の無料

鎌倉国宝館。

以上のような公立博物館の動向を知ることができた。

博物館郷土資料館は、昭和44年11月に開館、という年月の浅いこともあって、開館当初からすでに年中無料化を実施してきたが、現在のところあまり変化がなく、入館者数も本館、分館に比較してはるかに少なく、現在その対策として市のパンフレットに載せることや観光案内板に加えてもらうべく計画をたていま実施中である。(主事：森川寛)

入館者統計

昭和47年度常設展示 (47.9.1~47.12.31)

月別	類別	本館						分館			郷土資料館			總計
		個人	團體	計	個人	團體	計	個人	團體	計	個人	團體	計	
9	大人	304	27	331	7,155	686	7,841	218	65	283	8,455			
	小人	327	199	526	777	397	1,174	25		25	1,725			
	計	631	226	857	7,932	1,083	9,015	243	65	308	10,180			
10	大人	108	59	167	3,204	445	3,649	95	6	101	3,917			
	小人	52	325	377	599	165	764	8	153	161	1,302			
	計	160	384	544	3,803	610	4,413	103	159	262	5,219			
11	大人	99		99	1,370	21	1,391	245	92	337	1,827			
	小人	102		102	187	20	207	39		39	348			
	計	201		201	1,557	41	1,598	284	92	376	2,175			
12	大人	63		63	413		413	65	19	84	560			
	小人	117		117	129		129	41		41	287			
	計	180		180	542		542	106	19	125	847			
累	計	4,810	8,746	13,556	51,800	16,153	67,953	3,432	688	3,120	84,629			

レリーフ巧芸画貸出しのお知らせ

今度博物館に大日本絵画巧芸美術KKより「慕情」(東郷青児作)など102点のレリーフ巧芸画が寄贈されました。学校及び美術同好の団体に貸出しをいたします。くわしいことは博物館にお問い合わせ下さい。

博物館日誌抄

(47.9.1~47.11.30)

- 47.9.1 第14回北海道文化集会一行来館(資料館)
- 2 市民講座(植物)開催(本館)
- 3 利休正伝宗偏流宗夢茶会が杉花亭にて開催(本館)
- 16 札幌文学散歩の会更科源蔵氏ほか2名来館(分館)
- 19 全国博物館大会(札幌市)が開催される。3名参加
- 22 科学教室開催(分館)
- 22 全国博物館大会参加一行20名が本館、分館を見学
- 22 奈良国立文化財研究所岡幸二郎氏来館(本館)
- 22 函館市千代田小学校「母の会」一行30名来館(資料館)
- 24 相模原市国内研修生11名館内見学(本館)
- 27 青森市社会学級生50名館内見学(本館)
- 30 東北学院大学博物館学講座受講生一行4名来館(本館、資料館)
- 10.1 江戸千家流不白会茶会が杉花亭にて開催(本館)
- 7 北海道放送「幻の共和国」製作のため来館(分館)
- 11 博物館資料の曝涼、24日まで(3館共)
- 12 太平洋北区栽培漁業本調査のため館長青森県へ出張

- 14 市民講座(植物)開催(本館)
- 15 元道議会議員の会一行21名館内見学(本館)
- 27 千歳市公民館運営委員一行15名館内見学(本館)
- 28 「道南の歴史を学ぶ会」一行24名館内見学(本館)
- 29 亀田市本町児童52名館内見学(本館)
- 29 科学教室開催(分館)
- 11.1 西桔梗(流通センター用地)遺跡発掘資料の整理開始(本館)
- 4 函館楽焼同好会「土」が楽焼展開催、7日まで(本館)
- 5 裏千家流淡交茶会が杉花亭にて開催(本館)
- 8 箱館戦争関係資料の調査(山形市、秋田市等)
- 11 市民講座(植物)開催(本館)
- 15 函館市内埋蔵文化財対策調査、18日まで(本館)
- 15 箱館戦争関係資料の調査(松山郡江差町、爾志郡乙部町)
- 25 埼玉県立博物館長吉田金一氏視察のため来館
- 26 文化講演会開催(本館)
- 29 レリーフ巧芸画102点贈呈式が市民会館にて開催、博物館に搬入

Hakodate City Museum News

SARANIP—サラニップ— No.6 1973.1.1.発行
編集・発行 市立函館博物館 (TEL 0138-23-5480)
北海道函館市青柳町・函館公園内(〒040)